

11組同級会が開催され 16 名集まる

中山正光（11組）

11月14日(土)、上田東急REIホテルで11組同級会が開催された。今回の幹事は村岡篤史、小出俊の両君。近親者の葬儀で欠席した関東クラス幹事の深町美由君に代って同クラス幹事の私が開催の挨拶。そして、78歳の健康そのものとお見受けする恩師上原孝先生のご挨拶と乾杯の音頭で同級会が始まった。

まず、登場したのは遠路、長嶋茂雄が生まれた千葉県佐倉市から駆け付けた丸山敏明君。未だに大企業S社での重鎮だ。オランダ11年、米国6年の海外勤務で子供の教育に苦勞をした話をした。次に本日紅一点の高津律子女史。初めての教員赴任地で「家庭科」を担当して困惑した話から始まり、結婚後、宮城県に赴任。校長を歴任中に3.11震災の貴重な体験談を披露。その後、男どもの報告が次々に続くが、総じて「運動不足」を嘆く奴が何と多いことか。

報告内容は11組らしく「キナ臭い政治・経済・海外情勢などの話題」は皆無であったのが誇らしい。7割方終わった所で上原先生の出番。「11組の皆を見ていると教師としていい生徒を持ったことを誇りに思う」「他の会では出番がなく寂しかったが11組の連中は優しい」といった内容のご講話が続いた時、今まで沈黙を保っていた田中建一君が突如立ち上がって「上原先生への謝辞」を滔々と大きな声で述べ始めたのには一同絶句。さすが人を思いやる人格者である。ここでは書けない様々な逸話があったが、あえて割愛する。

会が盛り上がる中、今夜は欠席の筈の羽田義久君が急遽登場。48歳の時に生まれた高校3年の長男のバレーボール長野大会の応援に行っていて決勝に残れなかったのが同級会に来たとのこと。長和町の商工会長と会社社長で国内外を大きな身体で飛び回っている。

「社員一同を今年9月にアメリカに連れて行ったぞ」との話に感嘆の声多数あり。

次に北京から態々参加した村田政夫君が、小学2年の息子の日本国籍取得と日本の学校に入れる苦勞話を始めた。突如上原先生に「英語の幼児教育の是々非々について」の質問を始めたが先生は敢えて回答せず。代わって田中君が「英語が全てでないぞ。如何に生きるかだ。」という大人の回答でこの話題はお終いとなった。

また、幹事の村岡君から今回の欠席者からのメッセージと近況などの紹介があった。

この中でずっと欠席中の佐藤義雄君、大塚隆夫君、伊藤恭一君、松村久君などの動向や3名となった物故者の話に皆の注目が集まった。

あと次々と報告があつて、中締めは応援団だった田中君。腹の座ったドスの効いた声で「上田一発締め」での散会となった。今回参加してくれた人で、上記に記載されていないのは青木潤一、荻久保一男、倉澤勝弘、中村良一、福澤源一郎、牧野信明、山岸敏夫の各君で出席者総勢16名であった。（2015年11月16日記）

【次ページに集合写真】



前列左から 中山、高津、上原先生、田中、青木、村田

後列左から 倉澤、丸山、牧野、福澤、小出、羽田、山岸、荻久保、中村、村岡